# カリキュラムマップ (理学療法学専攻)

CP1

1年次から4年次に向け、教養 的かつ基礎的科目から専門的 科目、それらを統合する総合 科目へと重層的に授業科目を

配置して学修成果を積み上げ

る。これらは学年制を基本と

し、学修評価に際しては客観

的評価指標を用いて到達段階

国家資格の理学療法士を養成

する専攻として、理学療法士

養成校指定規則に準拠した基

礎科目(教養基礎科目)、専 門基礎科目、専門科目、総合

科目を配置する。

を確認する。

CP2

# 教育目標

1. 品格と教養を備えた質の高い医療専門職人材の育成

少子高齢社会の到来を背景に医療の高度化と多様化が進んでいる。 様々な医療職が生まれ多職種協働による質の高い医療が求められて おり、本学においては高度化・多様化に対応できる質の高い医療専門 職を育成する。

選択科目

2. 科学的思考に基づく専門的知識と技術を備え、その発展に寄与する 人材の育成

日進月歩の医学界にあって、知識と技術の絶え間ない向上は専門職と しての社会的義務でもある。そうした責任感の下で、常に科学的な観点 から専門性を応用し、その発展に寄与できる人材を育成する。

3. 健康科学の専門性を基礎にして社会に貢献できる人材の育成

地域医療が多様性を帯び、医療専門職には医学的・社会的な対応が 求められるようになってきた。健康科学を基礎にリハビリテーション医療 の専門職として社会に貢献できる人材を育成する。

#### CP3

教養基礎科目には選択科目を 取り入れ、学生個々の興味と 関心に基づく幅広い教養を身 につけ、職種を超えたコミュ ニケーション能力を培う。

#### CP4

専門基礎科目では健康科学及 びリハビリテーション医学の 関連分野の学修を通して科学 的思考力を育み、理学療法士 としての医学的かつ専門的な 知識を修得する。

専門科目では理学療法学の各 分野における運動療法及び治 療方法を修得し、専門職とし ての実践力を養う。

#### CP6

実習科目ならびに演習科目を 各学年に配し、学修段階に応 じた実践的技術(スキル)を 身につける。

#### CP7

発展科目においては理学療法 士としての自らの学問的関心 に沿った選択により、専門性 を深めると同時に社会的課題 への関りを学ぶ。

地域リハビリテーション関連 科目および発展科目Bにおいて、 多職種協働、社会的貢献の実 践的アプローチを体験し、医 療現場の多様化や社会資源の 活用など、専門職としての在 り方を学修する。

### CP9

臨床総合実習においては医療 機関を中心にした臨床環境を 準備し、科学的思考に基づく 知識技術の応用、倫理観や協 働意識のあり方を体験する。

				l年	2年	3年	4年	
				ラーニングリテラシー 情報リテラシー 初年次IPE演習				DP1 教養
			人間の探求	人間科学概論,心理学 (生命倫理学 医療人類学)				医療専門職として 養と品格を身につ い理学療法士の素
		教養基礎	社会の探求	社会学概論。情報と社会 (法律と社会 教育と社会)				いる。
		科目	自然の探求	災害と共に生きる (ライフサイエンス生物学 バイオメカニクス)		データサイエンス		DP2 倫理
			言語の探求	基礎英語、コミュニケーション論 (コミュニケーション英語 異文化コミュニケーション)				対象者の多様な健 し、常に対象者本 理学療法を志向す
			保健体育	スポーツ実践				
			リハビリテーション 基礎医学		体表解剖学 組織学 運動生理学 脳科学概論 医学英語	応用解剖生理学		DP3 知識
		専門基礎 科目	臨床医学	リハビリテーション医学 病理学	内科学 神経内科学 整形外科学 精神医学 小児科学 臨床心理学	臨床栄養学 臨床薬理学 救急救命処置演習		理学療法士として テーション医学の 修得し、望ましい
			保健医療福祉	リハビリテーション概論	健康科学概論 社会福祉学概論	災害リハビリテーション 福祉住環境論	国際リハビリテーション学	提供するため適切 ことができる。
			基礎理学療法学	理学療法学概論	運動分析学	理学療法教育学	理学療法管理学	型学療法士として 識を基に、基本的
			理学療法評価学	理学療法評価学 形態評価学演習	理学療法評価学演習 筋機能評価学演習 神経機能評価学演習	生理機能評価学演習		技術を適切に選択つ的確に実践する。
		専門科目	理学療法治療学		物理療法学演習 日常生活活動学 日常生活活動学演習 装具学 神経理学療法学Ⅰ/Ⅱ	義肢学 神経理学療法学演習 運動器理学療法学演習 スポーツ理学療法学 小児理学療法学 呼吸器理学療法学 循環器理学療法学 代謝理学療法学		<b>DP5 科学</b> 対象者のもつ問題に、科学的思考に療法を実践し、そ
			地域理学療法		地域リハビリテーション学	地域理学療法学 多職種連携教育		のために研鑽でき DP6 協働
	<b>→</b>		発展科目A			(筋骨格系リハビリテーション 認知のリハビリテーション 痛みのサイエンス 予防リハビリテーション ニューロサイエンス スポーツサイエンス ヘルスプロモーション がんリハビリテーション)		医療福祉におけるとしての役割と社理解し、多職種と
	•		発展科目B			(社会自立支援技法 児童発達支援技法 地域社会支援技法)		動できる素養があ <b>DP7 貢献</b>
			臨床実習	早期臨床体験実習	理学療法臨床評価実習	品床权能演首 1 理子療法品床総合夫首 1	理学療法臨床総合実習Ⅱ 臨床技能演習Ⅱ 理学療法地域実習	地域社会のかかえ
		総合科目	統合科目			理学療法特論 I	理学療法特論Ⅱ 理学療法総合演習	学療法士としてのかし積極的に支援がある。
			理学療法研究			理学療法研究法 理学療法セミナー	卒業研究	がある。
			,					

ての幅広い教 つけ、質の高 |素養を有して

:健康問題に対 首本位で最善の ]する。

てリハビリ の基礎知識を い理学療法を **動切に応用する** 

ての確かな知 的な評価治療 択し、安全か ることができ

題解決のため に基づく理学 その進歩発展 ぎる。

る理学療法士 : 社会的要請を と協働して活 ずある。

ヽえる様々な健 **課題に対し、理** の専門性を活 援できる能力

# カリキュラムマップ (作業療法学専攻)

CP1

認する。

CP2

1年次から4年次に向け、教養

的かつ基礎的科目から専門的 科目、それらを統合する総合

科目へと重層的に授業科目を

配置して学修成果を積み上げ

る。これらは学年制を基本と

し、学修評価に際しては客観

的指標を用いて到達段階を確

国家資格の作業療法士を養成

する専攻として、作業療法士

養成校指定規則に準拠した基

礎科目(教養基礎科目)、専

門基礎科目、専門科目、総合

科目を配置する。

## 教育目標

1. 品格と教養を備えた質の高い医療専門職人材の育成

少子高齢社会の到来を背景に医療の高度化と多様化が進んでいる。 様々な医療職が生まれ多職種協働による質の高い医療が求められて おり、本学においては高度化・多様化に対応できる質の高い医療専門 職を育成する。

選択科目

2.科学的思考に基づく専門的知識と技術を備え、その発展に寄与する人材の育成

日進月歩の医学界にあって、知識と技術の絶え間ない向上は専門職としての社会的義務でもある。そうした責任感の下で、常に科学的な観点から専門性を応用し、その発展に寄与できる人材を育成する。

3.健康科学の専門性を基礎にして社会に貢献できる人材の育成

地域医療が多様性を帯び、医療専門職には医学的・社会的な対応が 求められるようになってきた。健康科学を基礎にリハビリテーション医療 の専門職として社会に貢献できる人材を育成する。

#### CP3

教養基礎科目には選択科目を 取り入れ、学生個々の興味と 関心に基づく幅広い教養を身 につけ、職種を超えたコミュ ニケーション能力を培う。

#### CP4

専門基礎科目では健康科学及 びリハビリテーション医学の 関連分野の学修を通して科学 的思考力を育み、作業療法士 としての医学的かつ専門的な 知識を修得する。

#### CP<sub>5</sub>

専門科目では作業活動や創作活動を通した生活行為の改善と環境調整技術、対人関係技法等の基本的・専門的な知識と技法を修得する。

#### CP6

実習科目ならびに演習科目を 各学年に配し、学修段階に応 じた実践的技術 (スキル)を 身につける。

#### CP7

発展科目においては作業療法 士としての自らの学問的関心 に沿った選択により、専門性 を深めると同時に社会的課題 への関りを学ぶ。

#### CP

地域リハビリテーション関連 科目および発展科目Bにおいて、 多職種協働、社会的貢献の実 践的アプローチを体験し、医 療現場の多様化や社会資源の 活用など、専門職としての在 り方を学修する。

#### CP9

臨床総合実習においては医療機関を中心にした臨床環境を 準備し、科学的思考に基づく 知識技術の応用、倫理観や協 働意識のあり方を体験する。

		I年	2年	3年	4年
		ラーニングリテラシー 情報リテラシー 初年次IPE演習			
	人間の探求	人間科学概論,心理学 (生命倫理学 医療人類学)			
教養基礎	社会の探求	社会学概論。情報と社会 (法律と社会 教育と社会)			
科目		災害と共に生きる (ライフサイエンス生物学 バイオメカニクス)		データサイエンス	
	言語の探求	基礎英語。コミュニケーション論 (コミュニケーション英語 異文化コミュニケーション)			
	保健体育	スポーツ実践			
	リハビリテーション 基礎医学	解剖学 I / Ⅱ 骨学筋学 I / Ⅱ 生理学 I / Ⅱ 生理学演習 I / Ⅱ 身体運動学 I / Ⅲ 人間発達学	体表解剖学 組織学 運動生理学 脳科学概論 医学英語	応用解剖生理学	
専門基礎 科目	臨床医学	リハビリテーション医学 病理学	内科学 神経内科学 整形外科学 精神医学 小児科学 臨床心理学	臨床栄養学 臨床薬理学 救急救命処置演習	
	保健医療福祉	リハビリテーション概論	健康科学概論 社会福祉学概論	災害リハビリテーション 福祉住環境論	国際リハビリテーション学
	基礎作業療法学	作業療法学概論 基礎作業学	基礎作業学演習 作業分析学	作業療法教育学	作業療法管理学
	作業療法評価学	作業療法評価学 身体機能評価学演習	作業療法評価学演習 精神機能評価学演習 神経機能評価学演習 発達機能評価学演習		
専門科目	作業療法治療学		身体機能作業療法学 I / II 高次脳機能作業療法学 精神機能作業療法学 I / II 日常生活活動学 生活行為向上マネジメント演習	身体機能作業療法学演習 精神機能作業療法学演習 運動器作業療法学 高齢期作業療法学 発達過程作業療法学 発達過程作業療法学演習 内部機能作業療法学 日常生活活動学演習 義肢装具学 職業関連活動学	
	地域作業療法		地域リハビリテーション学	地域作業療法学 多職種連携教育	
	発展科目A			(筋骨格系リハビリテーション 認知のリハビリテーション 痛みのサイエンス 予防リハビリテーション ニューロサイエンス スポーツサイエンス ヘルスプロモーション がんリハビリテーション)	
	発展科目B			(社会自立支援技法 児童発達支援技法 地域社会支援 技法)	
	臨床実習	早期臨床体験実習	作業療法臨床評価実習	臨床技能演習 I 作業療法臨床総合実習 I	作業療法臨床総合実習Ⅱ 臨床技能演習Ⅱ 作業療法地域実習
総合科目	統合科目			作業療法特論 I	作業療法特論Ⅱ 作業療法総合演習
	作業療法研究			作業療法研究法 作業療法セミナー	卒業研究

#### DP1 教養

医療専門職としての幅広い教 養と品格を身につけ、質の高 い作業療法士の素養を有して いる。

### DP2 倫理

より良い社会生活への適応に 向け、常に作業療法士として 対象者に寄り添い支えること ができる。

#### DP3 知識

作業療法士としてリハビリ テーション医学の基礎知識を 修得し、適切な作業療法や社 会資源を提供することができ る。

#### DP4 技術

作業療法士としての確かな知識を基に、作業活動を通した社会適応方法を選択し、基本的な身体的心理的アプローチを実践することができる。

#### DP5 科学

対象者のもつ問題解決のため に、科学的思考に基づく作業 療法を実践し、その進歩発展 のために研鑽できる。

### DP6 協働

医療福祉における作業療法士 としての役割と社会的要請を 理解し、多職種と協働して活 動できる素養がある。

## DP7 貢献

地域社会における生活上の健康課題や社会適応課題に対し、 作業療法士としての専門性を 活かし社会参加を支援する能力がある。

# 履修モデル例

	基礎医学研究	発達支援	地域支援	社会支援
人間の探求	医療人類学	生命倫理学	生命倫理学	医療人類学
社会の探求	法律と社会	教育と社会	教育と社会	法律と社会
自然の探求	ライフサイエンス生物学	ライフサイエンス生物学	バイオメカニクス	バイオメカニクス
言語の探求	コミュニケーション英語 異文化コミュニケーション	コミュニケーション英語 異文化コミュニケーション	コミュニケーション英語 異文化コミュニケーション	コミュニケーション英語 異文化コミュニケーション
	筋骨格系リハビリテーション	認知のリハビリテーション	認知のリハビリテーション	認知のリハビリテーション
発展科目A	痛みのサイエンス	ニューロサイエンス	予防リハビリテーション	スポーツサイエンス
光版行日八	ニューロサイエンス	スポーツサイエンス	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーション
	スポーツサイエンス	ヘルスプロモーション	がんリハビリテーション	がんリハビリテーション
発展科目B	社会自立支援技法 児童発達支援技法 地域社会支援技法	児童発達支援技法	地域社会支援技法	社会自立支援技法

\*卒業要件満たすための単位数は、教養基礎科目は、人間の探求・社会の探求・自然の探求・言語の探求からそれぞれ | 科目、発展科目Aは4科目、発展科目Bは | 科目の選択が必要である。

言語の探求、基礎研究の発展科目Bにおいては、自らの興味と関心のうえ選択するのが望ましい。 ただし、上記に示した発展科目B以外の選択科目は、履修モデル以上の科目を選択することも可能である。